

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106316
法人名	医療法人 社団操仁会
事業所名	グループホーム「さいわいの郷」にし町
所在地	岡山市中区高屋343
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106316-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院と併設しており、緊急時・体調不良時は速やかに医療機関を受診する事が出来る。 ・心身機能を維持する為に、日々の生活の中で運動や音楽・レクリエーションを取り入れている。 ・地域に密着したグループホームを目指し、ボランティアの受け入れや地域の活動に積極的に取り組んでいる。(今年はコロナ禍の為、ボランティアや地域の活動は自重している) ・食材を出来るだけ地域周辺で調達し、鮮度の良い物を選択し調理をしている。 ・敷地内にある調剤薬局と連携をし、利用者の薬についていつでも相談出来る。 ・看護師を1名配置し入居者の健康面を担っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>弾むような笑顔が太陽の如く燦々と照っていて、職員、利用者とも暖かさに満ち溢れている。何と言っても管理者のバックアップが自然と築かれている施設であった。看護部長や訪看の管理者とも連携しながら、ベクトルを合わせる為、時間を惜しみなく活用し個人面談を行い助け合っている。管理者は、職員の意見を隅から隅まで聞き入れ、看護部長や訪看の管理者の前向きな対応と合わせて、職員と情報共有から見えない部分を可視化させている。また、職員も自由奔放に「こんなことではどうか?」「こんな献立はどうか?」等と企画して実践に繋げている。母体の病院も利用者一人一人を同時に把握していて、ドクターも馴染みの関係を築き、介護と医療がスクラムを組んで対応していて、家族の安心感が、如実に意見の発信となり笑顔につながっている理由がわかった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝に理念を唱和し、職員間で共有できるようにしている。	法人と事業所の理念を事務所内と両フロアに掲示している。毎朝、理念を唱和し、職員間で共有できるようにしている。新入職員には、オリエンテーションの後に、先輩職員とのOJTを職員のスキルに応じて行われ、一か月程度、実践出来る様に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為実践できず。保育園が年に2回施設まで作成した手紙やメッセージ等を添えて持って来て下さり、管理者が受け取っている。	保育園児が手紙やメッセージを持参した時、利用者が礼状を出して交流を続けている。地域の関係機関に郵送や持参により、事業所の様子を写真や写真にして届けてる際に地域や事業所の情報を交換している。折り紙ボランティアの講師は、直ぐにサロンを開催出来る様にしている。	警察や消防などの地域の関わりも深めては如何でしょうか？なおかつ、皆さんで作られた作品を活用しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の書面会議の勉強会で資料を作成し送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に行事やグループホームに関する事を報告している。また入居者家族や町内の方の意見や要望を聞き、サービスの向上や運営推進会議のテーマを決めている。コロナ禍の為現在は書面会議を行っている。	書面会議に切り替えて隔月の開催を続けている。参加メンバーからは、「職員の顔と名前をもっと分かりやすくしてほしい」との要望があった。接遇に関する気付きの助言・レベルを上げた勉強会の開催し、テーマを広げた研修会の要望など多岐にわたるので、改善報告を交付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公民館館長・民生委員・地域包括センター職員・老人会会長・介護福祉課の職員・入居者の家族や地域薬剤師と連絡を密にして運営推進会議の書面会議を行っている。意見などは議事録にして参加者全員に送付している。	両管理者が窓口となっている。コロナ最新情報や報酬改定の時など、メールや電話にて気軽に相談出来る関係を構築されていて、市町村とも気軽に話せる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、安全確保の目的でエレベーターホールの3階のみ施錠している。またにし町では夜間就寝時1名は家族の要望によりペット柵・センサーマットを使用している。身体拘束のマニュアルも作成しており、病院の拘束委員会にも参加して事例検討など共有し、毎月のカンファレンス時にスタッフ全員で勉強会も行っている。	身体拘束はしていない。どうしても必要がある方にのみ、センサーマットを使用している。地域の外部研修はコロナで中止になっているが、再開時には、いつでも参加出来る体制が整備されている。各職員は、個人的に外部の勉強会に参加したい士気がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関してカンファレンス時に学ぶ機会を持ち、虐待防止に注意をはらっている。毎月のカンファレンスでは倫理綱領を1項目づつ取り上げて話し合いをしたり、虐待についての院外研修に参加したりし、意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を勉強し理解を深めている。必要時に活用できるように支援を務めるが、ひがし町では現在成年後見制度の利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な説明と共に利用者や家族の不安な疑問について説明をし、理解が得られるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を反映できるように運営推進会議・管理者との面談、面会時などで家族から意見を聞いています。意見箱の設置はしていますが投函はありません。直接管理者に意見や要望を話される方もおられます。意見や要望があった時はありがたい事だと前向きにとらえ全職員で話し合い改善させるように意見を出し合って努めている。	家族とは、面会時や毎月の便りで話題を提供する事で意見を聞き取る様にしている。他部署の職員がゲートキーパー役となっていて、そこで聞き取った事が管理者に届くので、柔らかい関わり方で解決に進められる。嬉しいニュースや明るい話題は、みんなが知っている風土に培われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をカンファレンスや個人面談時に聴き、反映させるように努めている。	日頃から管理者は職員の様子や表情に気を配っているため、変化に気付いた時には、その場で言葉をかけ、早くに解決できる様に取り組んでいる。西ユニットの職員は東の管理者に、東はその反対にと行った様に、立場や役職の垣根を越えて、気付いた事を伝える事も当たり前に行われている。	管理者も職員なので、時には立場や役職を変えて体験してみる事で、業務改善となり、職員全員が働きやすい場にしては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員各々の努力を評価し、意見や要望を聞き入れるように努めている。業務に関して必要な整備などは迅速に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・外の研修に積極的に参加するように機会を確保している。研修内容は勉強会でフィードバックして職員間で共有している。コロナ禍の為オンライン研修など参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で他の同業者と交流を持ち情報交換を行っている。参考になる事を取り入れてサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が初期の段階で困っている事・不安な事・要望などを聴き、信頼関係が築けるように努めている。また毎月利用者に要望を聞いていますが、はっきりと意思表示が出来ない方もおられる為、毎日接している時の何気ない会話等で不安や要望を予測して改善に取り組んだり、記録に残したりしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・不安な事・要望などを聴き家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で必要なサービスを見極めて支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に昔の話を教えて貰ったり経験した事を教えて貰ったりと、共に生活をしていく気持ちで介護するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明で、家族・職員・地域が共に本人を支えていくという考え方を本人・家族の方に説明し、理解と協力をして貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されても馴染みの方との交流が途切れないように、面会に来ていただいたり、家族の協力により外出や外泊をされている方もおられるが、家族が県外の方も多くなり面会の頻度も以前よりかは少なくなってきた。施設としても外出行事などを計画し案内状を出す等して家族の参加をお願いしている。	広い敷地内に母体法人の病院があり、入居者は定期的に受診をするので、病院スタッフと馴染め、また通院の道中に、頻繁に顔を合わせる給食センターや出入り業者の方との交流もすっかり馴染みとなっている。家族の差し入れやZOOMを活用して馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように利用者同士の関係を取り持ったり、事前にトラブルを回避するように職員は働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談を受けたり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意見を聴き、出来るだけ本人本位で生活できるように努めているが、はっきりと意思表示できない方もおられる為、毎日接している時の何気ない会話等で不安や要望を予測して改善に取り組んだり、記録に残したりしています。	本人本位で生活できる様に、意向を汲み取り易くし、日頃からおたおたせずに職員は努めている。職員は皆、普段から積極的に利用者言葉に言葉を掛けようとしている。手編みのセーターに話題を向けたり、恋愛話に花を咲かせたりしているので、利用者は心を満たしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活環境を職員間で共有し、暮らしの中に取り入れようと努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の持っている力を把握し、日々変動する心身の状態の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員など関係者と話し合い、より本人のニーズに合った介護計画を立てるように努めている。入居される時に本人・家族・利用していた医療・施設関係者からの聞き取りをして介護計画を作成し、1ヶ月で見直しをし、グループホームでの生活に沿った介護計画を作成する。毎月担当の職員が評価し、3か月ごとに計画作成担当者が評価して6か月目に再度援助計画の見直しを行う。	入居時に作ったケアプランを一か月後に、それ以降は半年毎にプランを見直している。その間、状態に応じてプランを修正している。モニタリングは毎月行い、医療関係者とは、往診や訪問看護などの時間に交わした意見をプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った介護を行い、気づきや工夫したことを記録し、職員間で共有する。またその結果を計画の見直しとしている。毎月個別カンファも行っており、その時に気づいた事なども介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人にあった対応策を考え、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公民館や近所のボランティアの方々の協力をいただき、入居者が心身共に楽しめることを考えて支援しているが、今年はコロナ禍の為、ボランティア等支援することが出来ずスタッフが色々考え施設内で出来る支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望されたかかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。また外部の病院をかかりつけ医にされている方は家族が対応されている。その時には日々の様子を細かく記録した物を添えてお伝えしている。	入居時にかかりつけ医を選べるが、皆、母体の主治医に転医される。他科へは原則、家族が受診を介助する。訪問歯科と訪問リハビリは、必要や要望に合わせて来所する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に介護職は日々のかかわりの中で得られた情報を伝える。また訪問看護師自らも入居者の健康管理を行い、必要時に医療関係の受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報を提供したり、出来るだけ早期に退院できるように病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から定期的に重度化した時や終末期の方針を本人・家族から聞き出し記録している。その内容を職員間で共有し、その時に出来る範囲の事をさせてもらう事を家族に伝えている。	看取りをしていて、入居時に行う重度化の説明も、家族の「今の気持ち」を大切にした対応を取っている。看取った後、毎月のカンファレンスで振り返り、次に活かしている。看取り期に現実を受け入れ難くしている家族の配慮も心がけている。研修は、法人と事業所内で1回ずつ開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回病院にて心肺蘇生の研修を受講し、心肺蘇生の方法やAEDの使用方法を研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、春の訓練では消防署の方に依頼して避難訓練の方法や消火訓練など指導をして頂いている。また水害時・災害時の避難方法なども運営推進会議で地域との体制について話し合いをしている。	年に3回、昼夜を想定して火災・水害・地震の避難訓練を行っている。消防署には、案内と報告をしている。備蓄は、米・水・カセットコンロ・缶詰・乾物等が、3日分程度ある。マニュアル・緊急連絡網を整備しており、訓練に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴時の介助時など誇りやプライバシーに配慮した声掛け・対応に気を付けて行っている。名前もさん付けで統一し、あだ名やちゃん付けで呼ばないように気を付けている。またそのような事があった時はその場で注意を行っている。	入居時に、居室に名札を掲げるか可否を本人家族と決めている。入浴やトイレの際、出来るだけ肌を露出させない様に配慮する。呼称は、苗字に「さん」を付け、同姓の方には、下の名前に「さん」を付け、あだ名やちゃん付けで呼ばない。その様な事があった時は、その場で注意する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人に思いや希望を聴き、希望を実行できるように取り組んでいるが、最近のご自分の希望や要望を言える方がほとんど居られない為、日常の何気ない会話の中や家族が来所された時に好きだった物等を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・休憩など、個々のペースに合わせた過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝顔を洗い、髪の毛を整えている。化粧品などは家族に協力してもらい、オシャレや身だしなみを支援している。2ヶ月ごとに訪問美容を依頼し散髪をして貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食事の準備や下ごしらえ等スタッフと一緒に出来る方もおられたが、今はほとんど出来る方が少なくなり、お盆拭きやテーブル拭き・レタスをちぎって貰ったり等の簡単な作業をスタッフと一緒にしている。	食事は、三食手作り。おやつは買う楽しみを活かして職員が食材と共に買う。献立から職員で決め、調理前に出来るだけ食材を利用者に見て頂き、五感に刺激を感じる様に取り組んでいる。配膳下膳、お盆拭きやテーブル拭き、食材の下ごしらえ等の簡単な作業を職員と行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をしっかりと摂取できるように声掛けをし支援している。また形態もミキサー食・普通食まで個々のレベルに合わせた食事に行っている。今年から栄養管理加算を取得した為、第一病院の管理栄養士と連携し栄養相談や指導をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清掃が保たれるように食後に歯磨きや介助にて口腔ケアなど本人のレベルに合わせたケアを行っている。また訪問歯科より毎月口腔衛生管理に関わる助言をしていただき、その後スタッフ全員で情報を共有し口腔ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツ使用している方はこまめにパット交換をし、紙パンツを使用できる方は紙パンツに替えて、トイレ誘導を行っている。夜間は睡眠をしっかりできる様に支援しています。	利用者毎のペースが掴めるまで排泄チェック表を使うので、日中はトイレ誘導となっている。オムツを使用している方はこまめにパット交換をし、紙パンツを使用できる方は紙パンツに替えて、トイレ誘導を行っている。重度化になるとポータブルトイレも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日摂り、バランスの取れた食事・十分な水分が摂れるように支援している。毎日体操をしたり散歩をして体を動かしている。それでも出ない方は訪問看護師や定期受診時に主治医に相談して下剤などを調整して貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入居者のペースに合わせてタイミングみて気持ち良く入浴出来る様に支援している。	週に2～3回入浴を提供している。要望があれば出来る限り要望を受け入れている。出来るだけ気分良く入って頂ける配慮として、相性の良い職員が介助に入ったり、家族が来られて対応して頂いたり、「お花を摘みに行きましょう」等と言葉を掛けたり、入浴剤を活用したり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者の体調・生活習慣によって日中も休息される時がある。夜間は安心して睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルに使用している薬の作用・副作用・用法を確認して整理・理解している。また服薬の支援をし、症状の変化にも注意している。また看護師や連携している地域薬局へも何かあればすぐに相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でその方ができそうな家事をしてもらい、役割を持ってもらっている。一人ひとりの楽しみ事は家族等にも協力してもらい、気分転換になるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば近所のドラッグストアへ買い物にいつている。家族と一緒に外出して食事・買い物を楽しんでいる方もおられる。また、時候がよい春・秋には外出行事を計画したり、ベランダや施設周辺に散歩したりしている。が今年にはコロナ禍の為行っていない。	天気の良い日には、ベランダにて日向ぼっこ気分新鮮な空気を吸ったり、敷地内にある花壇やプランターの季節の野菜や花の様子を見て楽しんだりして、職員とおしゃべりしたり、日頃からの外出を有意義に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者の方には買い物の際にお金が見えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の方が電話をかけたい時には電話がかかけられるように取り次いでいる。携帯電話を持たれている方もおられる。はがき・手紙のやり取りも支援している。年末には年賀状を作成し家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では定期的に換気・空調の調節を日々行っている。日常的には、不快・混乱を招かない様な音・光・配色に配慮して落ち着いた空間になるように努めている。また季節を感じてもらうように飾りつけを変えたり、ベランダの花等を植え替えて居心地よさを工夫している。	三階建ての最上階に建ち、採光豊かで屋内の色調も明るく、手作りの掲示物や写真の作風からも温かみを感じさせる。ホールの制作物は、毎月入れ替え、空調・温度・湿度の最適な環境を提供している。両ユニットを西町・東町と名付け、地域でくらししている意識をさりげなく提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋でテレビをみて過ごされたり、リビングにてテレビをみられたり、ご自分の席でウトウトされる方、畳スペースで横になられている方等、共用空間内に好きな居場所ができています。また同じ席の方同士で色々おしゃべり等楽しまれ穏やかに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との思いでの物、本人の好みの家具、使い慣れた小物等を置いている。また本人が作った作品等も飾っている。	トイレ備え付けの居室が用意されており、利用者の状態に合わせた居室が選べる。馴染みのぬいぐるみや仏壇、利用者が作成したカレンダー等、利用者は思い思いの物を持ち込まれていて、ホッと居心地の良さを感じる。かつての看護師寮を改装した利便性がほのかに感じられ、落ち着く。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは淡い色で統一されていて、歩行時支障となる細かい段差・濃淡に気を付けている。歩行時は出来るだけ自力で歩けるように見守り・援助している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106316
法人名	医療法人 社団操仁会
事業所名	グループホーム「さいわいの郷」ひがし町
所在地	岡山市中区高屋343
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 25 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106316-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院と併設しており、緊急時・体調不良時は速やかに医療機関に受診する事が出来る。 ・心身機能を維持する為に、日々の生活の中で運動や音楽・レクリエーションを取り入れている。 ・地域に密着したグループホームを目指し、ボランティアの受け入れや地域の活動に積極的に取り組んでいる。(今年はコロナ禍の為、ボランティアや地域の活動は自重している) ・食材を出来るだけ地域周辺で調達し、鮮度の良い物を選択し調理をしている。 ・敷地内にある調剤薬局と連携をし、利用者の薬についていつでも相談出来る。 ・看護師を1名配置し入居者の健康面を担っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>弾むような笑顔が太陽の如く燦々と照っていて、職員、利用者とも暖かさに満ち溢れている。何と言っても管理者のバックアップが自然と築かれている施設であった。看護部長や訪看の管理者とも連携しながら、ベクトルを合わせる為、時間を惜しみなく活用し個人面談を行い助け合っている。管理者は、職員の意見を隅から隅まで聞き入れ、看護部長や訪看の管理者の前向きな対応と合わせて、職員と情報共有から見えない部分を可視化させている。また、職員も自由奔放に「こんなことではどうか?」「こんな献立はどうか?」等と企画して実践に繋げている。母体の病院も利用者一人一人を同時に把握していて、ドクターも馴染みの関係を築き、介護と医療がスクラムを組んで対応していて、家族の安心感が、如実に意見の発信となり笑顔につながっている理由がわかった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝に理念を唱和し、職員間で共有できるようにしている。	法人と事業所の理念を事務所内と両フロアに掲示している。毎朝、理念を唱和し、職員間で共有できるようにしている。新入職員には、オリエンテーションの後に、先輩職員とのOJTを職員のスキルに応じて行われ、一か月程度、実践出来る様に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域との付き合いは実践できていない。保育園が年に2回先生と共に園児が作成した手紙やメッセージ等を施設前まで持って来て下さり、管理者が受け取っている。	保育園児が手紙やメッセージを持参した時、利用者が礼状を出して交流を続けている。地域の関係機関に郵送や持参により、事業所の様子を写真や写真にして届けてる際に地域や事業所の情報を交換している。折り紙ボランティアの講師は、直ぐにサロンを開催出来る様にしている。	警察や消防などの地域の関わりも深めては如何でしょうか？なおかつ、皆さんで作られた作品を活用しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の書面会議の勉強会で資料を作成し送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に行事やグループホームに関する事を報告している。また入居者家族や町内の方の意見や要望を聞き、サービスの向上や運営推進会議のテーマを決めている。コロナ禍の為現在は書面会議を行っている。	書面会議に切り替えて隔月の開催を続けている。参加メンバーからは、「職員の顔と名前をもっと分かりやすくしてほしい」との要望があった。接遇に関する気付きの助言・レベルを上げた勉強会の開催し、テーマを広げた研修会の要望など多岐にわたるので、改善報告を交付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公民館館長・民生委員・地域包括センター職員・老人会会長・介護福祉課の職員・入居者の家族や地域薬剤師と連絡を密にして運営推進会議の書面会議を行っている。意見などは議事録にして参加者全員に送付している。	両管理者が窓口となっている。コロナ最新情報や報酬改定の時など、メールや電話にて気軽に相談出来る関係を構築されていて、市町村とも気軽に話せる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しているが、安全確保の目的でエレベーターホールの3階のみ施錠している。またひがし町では夜間就寝時1名は家族の要望によりペット柵・センサーマットを使用している。身体拘束のマニュアルも作成しており、病院の拘束委員会にも参加して事例検討など共有し、毎月のカンファレンス時にスタッフ全員で勉強会も行っている。	身体拘束はしていない。どうしても必要がある方にのみ、センサーマットを使用している。地域の外部研修はコロナで中止になっているが、再開時には、いつでも参加出来る体制が整備されている。各職員は、個人的に外部の勉強会に参加したい士気がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関してカンファレンス時に学ぶ機会を持ち、虐待防止に注意をはらっている。毎月のカンファレンスでは倫理綱領を1項目づつ取り上げて話し合いをしたり、虐待についての研修に参加したりし、意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を勉強し理解を深めている。必要時に活用できるように支援を務める。現在成年後見制度を利用する方はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な説明と共に利用者や家族の不安な疑問について説明をし、理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を反映できるように運営推進会議・管理者との面談、面会時などで家族からの意見を聞いている。意見箱の設置はしていますが投函はありません。直接管理者に意見や要望を話される方もおられ、意見や要望があった時はありがたい事だと前向きにとらえている。その内容を全職員で話し合い改善するように努めている。	家族とは、面会時や毎月の便りで話題を提供する事で意見を聞き取る様にしている。他部署の職員がゲートキーパー役となっていて、そこで聞き取った事が管理者に届くので、柔らかい関わり方で解決に進められる。嬉しいニュースや明るい話題は、みんなが知っている風土に培われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をカンファレンスや個人面談時に聴き、反映させるように努めている。	日頃から管理者は職員の様子や表情に気を配っているため、変化に気付いた時には、その場で言葉をかけ、早くに解決できる様に取り組んでいる。西ユニットの職員は東の管理者に、東はその反対にと行った様に、立場や役職の垣根を越えて、気付いた事を伝える事も当たり前に行われている。	管理者も職員なので、時には立場や役職を変えて体験してみる事で、業務改善となり、職員全員が働きやすい場には如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員各々の努力を評価し、意見や要望を聞き入れるように努めている。業務に関して必要な整備などは迅速に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・外の研修に積極的に参加するように機会を確保している。研修内容は勉強会でフィードバックして職員間で共有している。コロナ禍の為オンライン研修など参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で他の同業者と交流を持ち情報交換を行っている。参考になる事を取り入れてサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が初期の段階で困っている事・不安な事・要望などを聴き、信頼関係が築けるように努めている。また毎月利用者に要望を聞いていますが、はっきりと意思表示が出来ない方もおられる為、毎日接している時の何気ない会話等で不安や要望を予測して改善に取り組んだり、記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・不安な事・要望などを聴き家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で必要なサービスを見極めて支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に昔の話を教えて貰ったり経験した事を教えて貰ったりと、共に生活をしていく気持ちで介護するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時の説明で、家族・職員・地域が共に本人を支えていくという考え方を本人・家族の方に説明し、理解と協力をして貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということで面会の制限をしている為、関係の継続は厳しい状態となっている。出来る事の中で支援に努めている。	広い敷地内に母体法人の病院があり、入居者は定期的に受診をするので、病院スタッフと馴染め、また通院の道中に、頻りに顔を合わせる給食センターや出入り業者の方との交流もすっかり馴染みとなっている。家族の差し入れやZOOMを活用して馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように利用者同士の関係を取り持ったり、事前にトラブルを回避するように職員は働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談を受けたり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意見を聴き、出来るだけ本人本位で生活できるように努めているが、はっきりと意思表示できない方もおられる為、毎日接している時の何気ない会話等で不安や要望を予測して改善に取り組んだり、記録に残している。	本人本位で生活できる様に、意向を汲み取りやすくし、日頃からおたおたせず職員は努めている。職員は皆、普段から積極的に利用者言葉に言葉を掛けようとしている。手編みのセーターに話題を向けたり、恋愛話に花を咲かせたりしているので、利用者は心を満たしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活環境を職員間で共有し、暮らしの中に取り入れようと努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の持っている力を把握し、日々変動する心身の状態の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員など関係者と話し合い、より本人のニーズに合った介護計画を立てるように努めている。入居される時に本人・家族・利用していた医療・施設関係者からの聞き取りをして介護計画を作成し、1ヶ月で見直しをし、グループホームでの生活に沿った介護計画を作成する。毎月担当の職員が評価し、6か月目に再度援助計画の見直しを行っている。	入居時に作ったケアプランを一か月後に、それ以降は半年毎にプランを見直している。その間、状態に応じてプランを修正している。モニタリングは毎月行い、医療関係者とは、往診や訪問看護などの時間に交わした意見をプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った介護を行い、気づきや工夫したことを記録し、職員間で共有する。またその結果を計画の見直しとしている。毎月個別カンファも行っており、その時に気づいた事なども介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人にあった対応策を考え、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公民館や近所のボランティアの方々の協力をいただき、入居者が心身共に楽しめることを考えて支援しているが、今年はコロナ禍の為、ボランティア等支援することが出来ずスタッフが色々考え施設内で出来る支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望されたかかりつけ医との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。また外部の病院をかかりつけ医にされている方は家族が対応されている。その時には日々の様子を細かく記録した物を添えてお伝えしている。	入居時にかかりつけ医を選べるが、皆、母体の主治医に転医される。他科へは原則、家族が受診を介助する。訪問歯科と訪問リハビリは、必要や要望に合わせて来所する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師及びGH看護師に介護職は日々のかかわりの中で得られた情報を伝える。また訪問看護師自らも入居者の健康管理を行い、必要時に医療関係の受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報を提供したり、出来るだけ早期に退院できるように病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から定期的に重度化した時や終末期の方針を本人・家族から聞き出し記録している。その内容を職員間で共有し、その時に出来る範囲の事をさせてもらう事を家族に伝えている。	看取りをしていて、入居時に行う重度化の説明も、家族の「今の気持ち」を大切にされた対応を取っている。看取った後、毎月のカンファレンスで振り返り、次に活かしている。看取り期に現実を受け入れ難くしている家族の配慮も心がけている。研修は、法人と事業所内で1回ずつ開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回病院にて心肺蘇生の研修を受講し、心肺蘇生の方法やAEDの使用方法を研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、春の訓練では消防署の方に依頼して避難訓練の方法や消火訓練など指導をして頂いている。また水害時・災害時の避難方法なども運営推進会議で地域との体制について話し合いをしている。	年に3回、昼夜を想定して火災・水害・地震の避難訓練を行っている。消防署には、案内と報告をしている。備蓄は、米・水・カセットコンロ・缶詰・乾物等が、3日分程度ある。マニュアル・緊急連絡網を整備しており、訓練に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴時の介助時など誇りやプライバシーに配慮した声掛け・対応に気を付けて行っている。名前もさん付けで統一し、あだ名やちゃん付けで呼ばないように気を付けている。またそのような事があった時はその場で注意を行っている。	入居時に、居室に名札を掲げるか可否を本人家族と決めている。入浴やトイレの際、出来るだけ肌を露出させない様に配慮する。呼称は、苗字に「さん」を付け、同姓の方には、下の名前に「さん」を付け、あだ名やちゃん付けで呼ばない。その様な事があった時は、その場で注意する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人一人に思いや希望を聴き、希望を実行できるように取り組んでいるが、最近のご自分の希望や要望を言える方がほとんど居られない為、日常の何気ない会話の中や家族が来所された時に好きだった物等を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・休憩など、個々のペースに合わせた過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝顔を洗い、髪の毛を整えている。化粧品などは家族に協力してもらい、オシャレや身だしなみを支援している。訪問美容を依頼し散髪をして貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食事の準備や下ごしらえ等スタッフと一緒に出来る方もおられたが、今はほとんど出来る方が少なくなり、お盆拭きやテーブル拭き・レタスをちぎって貰ったり等の簡単な作業をスタッフと一緒にしている。	食事は、三食手作り。おやつは買う楽しみを活かして職員が食材と共に買う。献立から職員で決め、調理前に出来るだけ食材を利用者に見て頂き、五感に刺激を感じる様に取り組んでいる。配膳下膳、お盆拭きやテーブル拭き、食材の下ごしらえ等の簡単な作業を職員と行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をしっかりと摂取できるように声掛けをし支援している。また形態もミキサー食・普通食まで個々のレベルに合わせた食事に行っている。今年から栄養管理加算を取得し、第一病院の管理栄養士と連携し栄養相談や指導をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清掃が保たれるように食後に歯磨きや介助にて口腔ケアなど本人のレベルに合わせたケアを行っている。また訪問歯科より毎月口腔衛生管理に関わる助言をしていただき、その後スタッフ全員で情報を共有し口腔ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツ使用している方はこまめにパット交換をし、紙パンツを使用できる方は紙パンツに替えて、トイレ誘導を行っている。夜間は睡眠をしっかりできる様に支援しています。	利用者毎のペースが掴めるまで排泄チェック表を使うので、日中はトイレ誘導となっている。オムツを使用している方はこまめにパット交換をし、紙パンツを使用できる方は紙パンツに替えて、トイレ誘導を行っている。重度化になるとポータブルトイレも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日摂り、バランスの取れた食事・十分な水分が摂れるように支援している。毎日体操をしたり散歩をして体を動かしている。それでも出ない方は訪問看護師や定期受診時に主治医に相談して下剤などを調整して貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入居者のペースに合わせてタイミングみて気持ち良く入浴出来る様に支援している。	週に2～3回入浴を提供している。要望があれば出来る限り要望を受け入れている。出来るだけ気分良く入って頂ける配慮として、相性の良い職員が介助に入ったり、家族が来られて対応して頂いたり、「お花を摘みに行きましょう」等と言葉を掛けたり、入浴剤を活用したり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者の体調・生活習慣によって日中も休息される時がある。夜間は安心して睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルに使用している薬の作用・副作用・用法を確認して整理・理解している。また服薬の支援をし、症状の変化にも注意している。また看護師や連携している地域薬局へも何かあればすぐに相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でその方ができそうな家事をしてもらい、役割を持ってもらっている。一人ひとりの楽しみ事は家族等にも協力してもらい、気分転換になるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば近所のドラッグストアへ買い物にいつている。家族と一緒に外出して食事・買い物をされ楽しまれている方もおられる。また、時候がよい春・秋には外出行事を計画したり、ベランダや施設周辺に散歩したりしている。が今年にはコロナ禍の為行っていない。	天気の良い日には、ベランダにて日向ぼっこ気分新鮮な空気を吸ったり、敷地内にある花壇やプランターの季節の野菜や花の様子を見て楽しんだりして、職員とおしゃべりしたり、日頃からの外出を有意義に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者の方には買い物のお金に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の方が電話をかけたい時には電話がかけられるように取り次いでいる。携帯電話を持たれている方もおられる。はがき・手紙のやり取りも支援している。年末には年賀状を作成し家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では定期的に換気・空調の調節を日々行っている。日常的には、不快・混乱を招かない様な音・光・配色に配慮して落ち着いた空間になるように努めている。また季節を感じてもらうように飾りつけを変えたり、ベランダの花等を植え替えて居心地よさを工夫している。	三階建ての最上階に建ち、採光豊かで屋内の色調も明るく、手作りの掲示物や写真の作風からも温かみを感じさせる。ホールの制作物は、毎月入れ替え、空調・温度・湿度の最適な環境を提供している。両ユニットを西町・東町と名付け、地域でくらししている意識をさりげなく提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋でテレビをみて過ごされたり、リビングにてテレビをみられたり、ご自分の席でウトウトされる方、共用空間内に好きな居場所ができています。また同じテーブルの方同士で色々おしゃべり等楽しまれ穏やかに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との思いでの物、本人の好みの家具、使い慣れた小物等を置いている。また本人が作った作品等も飾っている。	トイレ備え付けの居室が用意されており、利用者の状態に合わせた居室が選べる。馴染みのぬいぐるみや仏壇、利用者が作成したカレンダー等、利用者は思い思いの物を持ち込まれていて、ホッと居心地の良さを感じる。かつての看護師寮を改装した利便性がほのかに感じられ、落ち着く。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは淡い色で統一されていて、歩行時支障となる細かい段差・濃淡に気を付けている。歩行時は出来るだけ自力で歩けるように見守り・援助している。		